

閉会中の調査報告

福祉教育常任委員会

開催日 平成 24 年 8 月 20 日（月） 9 : 00 ~ 12 : 15

出席者 委員全員

健康福祉部長、子育て支援課長
教育部長、教育部理事、教育部管理監、
生涯学習課主幹、高齢福祉課長
ふれあいセンター「そよ風」
理事長 平井和夫さん



所管事務調査

○ 子育て支援事業に関する施策についての検証

平成 24 年一般会計予算について当委員会で付帯決議の提出に至った事業の一つとして、子育て支援課所管の「子育て支援センター事業」と生涯学習課所管の「親子プレイステーション」があげられ、前回の委員会で現地踏査した事もふまえ、子育て支援事業の良く似た施策について、これで充分であるか？ 湖南市全体として捉えた時、重複してないか。効果は得られているか？ など、執行部と議員が意見を交換した。

子育て支援センター事業（みつばち開放日事業含む）

H23 年度決算額 887 万円 ・ ・ ・ ・ 主に臨時職員 4 名の人件費

予算額の 2 分の 1 が国庫補助金で賄われている。

親子プレイステーション事業

H24 年度予算額 27 万円 ・ ・ ・ 講師謝礼 24 万円（1 回あたり 2,000 円
× 開催回数分） + 備品 3 万円

総括

さまざまな子育て支援施策があるが、湖南市全体を考えたいうえでの事業展開が望まれる。湖南市では、児童虐待の事例も減ってはいないし、1 歳未満の乳幼児の死亡事例は人口比率にすると高い状況である。

施策縮小ではなく 2 つの事業を統合して、事業に参加していない家庭ももたらさず子育てに関するフォローができるように考えなくてはならない。

また、親になる前の教育、親になる心構え、命の大切さなど根本には教育がある。小中学校からの学齢期に応じた道徳教育や人権教育、性教育も重要なポイントである。

また、まちづくりの観点からも、自治会加入の重要性など、地域で子育てを見守るまちづくり体制が望まれる。

以上のような委員会の意見を参考に、今後、二課連携して話し合いを進めながら、事業展開に反映してもらおう事となりました。

○ 小規模多機能型居宅介護事業所 「ぬくもりの家大空」 現地踏査

ふれあいセンター「そよ風」理事長 平井和夫氏から説明を受ける。

住み慣れた地域、住み慣れた家で暮らし続けるために、可能な限り在宅で暮らすことを支える「我が家の離れ」として、この施設は設立された。

サービス内容（定員20人の登録制）

- ・ 通いサービス（定員9人）
- ・ 宿泊サービス（「泊まり」の個室は4室）
- ・ 訪問サービス

デイサービス、ショートステイの際、介護職員、環境が変わることで混乱が生じてしまう認知症の方にも、慣れた生活環境やなじみの介護職員がいることで安心して利用できる施設となっている。

総括

湖南省も急激に高齢化が進む中、吉永地先の地域に密着した介護施設が整備され大変ありがたく思う。

太陽光発電や、太陽熱の利用により管理費は抑えられ、費用については他施設に比べて比較的安い。しかしながら、良い環境を維持し、経営していく事は大変難しい。市民にとっては、長続きしてもらいたい事が望まれ、いかに知ってもらいたかが重要。

認知症対応型デイサービス大空では、入所者が現在少なく経営が大変厳しい状況である。

「病院ではなく、自宅で最後を迎えたい」と望む人が多いのにも関わらず、実際は病院で亡くなる方が圧倒的に多いとのこと。超高齢社会を迎えるにあたり、住み慣れた地域社会でその人らしさにあふれた快適で安心した生活が送れるように、また、病院ではなく自宅での看取り、施設での看取りも今後の課題で、訪問看護ステーションと連携した地域密着の小さな施設が今後必要である。

